

使われてこなかった「アベマキ」を

小学校の机の天板に

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 和田 賢治

されたことがとても刺激になったように、木を倒す仕事がかっこいい、将来林業をやりたい、という意見がアンケートに書かれていたことはとてもうれしかったです。

●アベマキという木との出会い

昨年度、授業の一環で美濃加茂市の平成記念公園北部の里山にてコナラやアベマキの伐採を行いました。その際、可茂森林組合や美濃加茂市の担当者から、「この地域はアベマキが豊富にあるが用途がなく困っている。なんとか活用できないか」と相談されました。調べてみると、美濃加茂市の中でも平成記念公園付近にアベマキが群生していることが分かりました。現在はこれといった使い道がなく、チップとしてしか生かされていないようです。

アベマキという樹は、ブナ科コナラ属の落葉広葉樹で、葉や実はクヌギと似ています。その用途に関しては、コルク層が発達するため、コルクとして利用するという事例は見つかりましたが、木材としての用途についての話は、薪や炭以外では探しても一向に出てきません。どうやら、堅くて、重い、暴

れる、割れる、反るなど気性の荒い木材で、木工用途としては事例がないということが分かってきました。

●学校机プロジェクトへ

しかし、材料が堅いということはテーブルなどの天板に最適です。また、ピンクがかかった色味は他の樹種ではない「かわいさ」があります。検討した結果、地元の小学校の机の天板にすることに、六年生がその天板作りに関わり、翌年の一年生に贈呈する、というプロジェクトの大枠ができました。木製学校机というと脚部まで木で作られたものがありますが、現在使われているスチール製の脚部はそのまま利用し、天板のみ取り替えます。

さっそくアベマキの天板を制作し、使われていない学校机を借りてきて取り付けてみました。関係者からは、今まで使われてきた合板の天板に比べ

て、木の質感があり、さらには色合いもよいと、とても好評でした。懸念していた重さもこれまでの天板と比較しても、実感として変わりませんでした。そこで、地元の山之上小学校にも了承を得て、正式にプロジェクトを進めることになりました。



●子どもたちの目の前で

今年の1月、五年生の生徒たちが見学する中、実際に天板にするためのアベマキの伐採を行いました。子どもたちの中には、大きな木が目の前で倒

●乾燥が肝

しかし、気性の荒いこのアベマキは一筋縄ではいきません。試作した天板は、数か月経つと平面が崩れ、凹凸を感じるようになりました。凹凸が目立つようになったら直せばいい、それもいい学びになる、という前向きな意見もありましたが、すべてがそうなるのは困りものです。しっかり乾燥することによって材料を安定させなければいけません。



そのため、現在はアベマキに適した乾燥スケジュールを特定するため、乾燥試験を実施したうえで、天板の試作を継続して行っています。